



電設協

上級職長へ36人が挑戦

基幹技能者認定講習の熊本会場

日本電設工業協会（電設協）が主催する登録電気工事基幹技能者の2023年度認定講習会が10

月28～29日に開かれた。熊本会場の熊本市流通情報会館には県内外から36人が集まり、2日間の講習プログラムを経て修了試験に挑んだ。

基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持ち、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者。現場では、いわゆる上級職長などとして、元請の計画・管理業務に参画・補佐することが期待される。直接施工業務10年以上の実務経験と3年以上の

職長経験を有し、第一種電気工事士免状を取得している者に受講資格が与えられ、九州では今年度、福岡、熊本、鹿児島の3会場で開催した。

熊本会場では、電設協から講師を委嘱された熊本県電設業協会の永野広

朗氏（エレテック社長）と石坂敏明氏（泰明電機社長）が講義し、1日目に永野氏が基幹技能者のあり方をはじめ、施工管理、工程管理などを指導。

2日目に石坂氏が安全管理、労務管理、品質管理などを講習した。